

令和四年八月吉日初版作成

個人・人類の意識波動を高める

高嶋 善三郎

目次

- ある言言の偉力・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
- あらゆる想念に把われさえしなければ、自由自在・・・・・・・・3
- あらゆる想念に把われない境地・・・・・・・・・・・・・・・・4
- 私たちの魂は宇宙神と直結した・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 自分の意識の波動が高くなれば、すべては輝く・・・・・・・・5
- 宇宙神から直接チャクラを通して高い波動を降ろす・・・・・・・・6

お願い

既に作成した資料（バックナンバー）は、ウェブサイト『白光北陸』のブログ欄に掲載しています。

より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。

次の連絡先にお問い合わせ致します。

（スマホ）090-3346-6619

（メールアドレス）zensan@peach.ocn.ne.jp

ある宣言の偉力

「他人の怒り、悲しみ、苦しみを手放します」という宣言を三回唱えると、胸につかえていた想いや、長年持ち続けたトラウマがなくなってきたという声が聞こえてきます。

この宣言は、ウェブサイト『白光北陸』のブログに「神聖をスムーズに現わすヒント」という題で掲出させていただきましたが、それをお読みになった方からの声です。

これは、何故このような効果をもたらせたのかと言いますと、私達は、自分の周りの人達から発せられているものは、無意識のうちに受け入れてしまいがちなのです。

特にマスメディアからは、自己中心と二元対立の観点から見解が発せられています。それを無意識に受け入れてしまうと、その見解に振り回され、自分や他人を無意識のうちに責めたりすることになります。何故その見解に振り回されるかというと、自分に向けて発せられた見解を受け入れてしまうと、その見解にエネルギーを与えたことになるのです。

このようになるのは、肉体の心の働きであるが、そのもとは、すべて本心(神聖)からくるエネルギーであり、このエネルギーはあなたの選択と注目に従って意のままに動くことを忘れてしまっているからです。

本心(神聖)は、大自然の根源である生命の働きを、その知恵と能力により大調和を達成していく働きをしているのですが、この働きを認め、現わしていないと、このような事態になるのです。

ですから、この働きを認め、現わしている私たちは、自分の周りの見解に把われていると感じたら、冒頭に言及した宣言をしたら、それらの把われを手放すことが出来るのです。手放せば、それらの業想念はすべて光となって消えてゆくののです。

あらゆる想念に把われさえしなければ、自由自在

これを五井先生は、どのように解説されているのでしょうか。

『老子講義』(第二講) 聖人は無為の事に処り・・・の解説の中で、次のように言及されています。

「人間は大生命(神)の中で生きている光明心(体)そのものであって、想念に把われさえしなければ、自由自在に、己れの欲する通りの世

界を自己の周囲に現わすことのできる存在なのである。」と。

それでは、人間は、何故想念に 把われてしまうのでしょうか。

五井先生の解説から整理してみましよう。

まず第一にこの世界は、相対世界であり、美という感覚があれば、醜悪という感覚がその相対の相としてある。それは善という感覚に対して不善というところが、相対的にある。おろくに有に無、難に易、長いに短い、高いに下

(言い換えれば、相対の世界では、日々の生活の中で目の前に現れる現象を前にして、それを乗り越えてゆへには、何らかの判断基準によつてどちらかを選択して生きていかなければならない苦があるからである)と考えられます。

第二にこれをしなければいけない。こうして、ああやって、こういうのは、この世の一般の人々の在り方であり、頭でいさかきかきして心を働かせて、事に当たらねばならぬ。無の思想をいかにきかせる。そこで、頭脳にめる知識経験の範囲で、種々と事を処してゆへ。そこ、それが人間の当然の在り方だとされてくるのである。

このように肉体頭脳の小智才覚では、この相対界の苦の境界を人類が抜け出せることができないといわわてくるのである。

それは何故なのでしょうか。

肉体身にしても、心臓も肺臓も、胃腸もいちいち働かそうとして動いているのではなく、生命すこやかなる限り、自然の活動として働いているのである。人間の想いもその点同じであるべきなのであるが、いつの間にか、そうした肉体的諸機関の在り方と異なってきたのである。

もし、人の想いが、心臓の上にはかりあれば、心臓の動きは、かえって不調になるであろう。肺も胃腸も、肝臓も、やはり同じこと。成長の時、そうした諸機関に想いがかかるといけないのである。

心というのも全く同様なのであるが、人々はそうは思っていないからと言われているのです。

想念に把われない境地

それでは、凡夫があらゆる想念に把われない、無為の境地になるためには、どうしたらよいと言われているのでしょうか。

やはり、神の存在を信じ、神の大愛を信ずるといふことが最初の出

発点になるわけで、この信仰心から、全託へと、一歩歩を進めてゆくと、如何なる想念にも把われない、無為の境地への道なのである。・・・人間というものは、この肉体そのものではない。肉体は人間の心のひびきの一つの現われにすぎない。人間は肉体の他に種々の体をもっていることは、神霊研究をした人ならず判るが、そうした枝葉のことよりも、人間は大生命（神）の中で生きている光明心（体）そのものであって、想念に把われさえしなければ、自由自在に、己れの欲する通りの世界を自己の周囲に現わすことのできる存在なのである。ということを知ることにのみ専念した方が、短時日で本心を開発することができるのである。そこで、はじめからどんな想念にも把われないという無為というように、高い境地を目指すより、世界平和の祈りのような、自己と人類同時成道という、容易にでき得る、神界からの救いの光明に乗って、日々の行為をしてゆき、時日を経て、自然に無為にして為す、という高い境地にまで至るほうが自然の在り方である。世界平和の祈りの日常生活からは、みながすべて、き子の無為の境地にまで、いつの間にか高まってゆくであらうと五井先生はいわれています。

私たちの魂は宇宙神と直結した

このみ教えが記載されている、『老子講義』の初版発行が昭和三十八年十一月五日であります。それから以降、次から次へと、そのみ教えを容易く自分のものにする方法が、天よりおろされていると言えます。我即神也の印、人類即神也の印、地球感謝行、光明思想徹底行、マンガラの作成、果因説、呼吸法による唱名などがそれであります。

また二〇〇三年から約七年間究極の光りを降ろすご神事に取り組むことにより、私たちの叡智のチャクラ（第六チャクラ）が開かれ、二〇一二年七月大行事の大成就を果たした結果、これから生ずる大災難政治経の低迷、宗教対立、民族紛争、国家間戦争、疫病、原爆、テロ、あらゆる人智、あくなき欲望にてつくりだしてきた大カルマによる救いうる神力が調ったという秘神示がありました。そして二〇一四年に私たちの魂は宇宙神と直結したというご神示を得、二〇一七年に神聖復活の印が降ろされ、すべての想念に把われないという心境を自分のものとする事がさらに容易くなってきました。

これらの一連のご神事やご神示を通して、私たちは、神聖の働きを知り知らずのうちに身近に感じるようになってはなごしてしまいませんか。

自分の意識の波動が高くなれば、すべては輝く

この宣言の偉力をより効果あるものにしていくには、やはり日々の自分の本心（神聖）へ想いを向け続けることが大切です。そして自分の意識の波動を高める必要があります。

このことが理解できる体験について紹介します。

私は、五井先生がご存命中、聖ヶ丘道場において五井先生がご出席の統一会に幾度も出席させていただきました。色々もややもした雑念をもちながら、行ったものですが、統一会が終わって帰る時は、心は晴れやかで、道端に咲く花々さえ輝いていました。そして今まで接することが嫌な人でさえ、輝いていたことを記憶しています。

その時は、み教えも完全にマスターしていたわけではありませんが、五井先生という聖者にお会いできた幸運によって、素晴らしい体験をさせていただきました。

五井先生がご帰神されて以降、み教えを整理してきましたが、その体験がいつも私の心の中心にあります。

もう少し分かりやすくするため、水にたとえてみてみましょう。

波動の高さを温度と考えます。

温度が零下になると、氷（固体）になります。また零度より高くなると、氷が解けて、水液体になります。温度が百度を超えると、水蒸気（気体）になりますが、この肉体界は、氷や水の世界のように、不自由な世界であり、水蒸気世界は自由自在の世界にたとえることができます。

あらゆる想念の把われを手放すためには、私達の内にある神聖を認め、現わすという意識が不可欠なのです。この意識が働いたとき、自分の意識は神聖の高い波動となり、あらゆる想念の把われを手放すことができます。その時、自分の周りはすべて輝くのです。そして自由自在に、己れの欲する通りの世界を自己の周囲に現わすことのできる存在になることができます。

宇宙神から直接チャクラを通して高い波動を降ろす

内なる神聖の働きをもっと身近に感じられるような真実（真理）について紹介します。

五井先生は宇宙天使の協力のもと、宇宙の根源のあり方や宇宙神と私たちの関係について宇宙子科学的に解明されました。私たちが宇宙子を通じて宇宙神とつながっているという真実(真理)は、遠い存在であった宇宙神との関係がとても身近になりました。

それは、人間には、宇宙神から常に放出されている新しい宇宙子が精宇宙子としてチャクラを通して流れて来ており、肉体内にある古い精宇宙子と入れ替わり、それが物質宇宙子で構成されている、肉体に流れていき、精神も肉体も、健全に保たれているのです。

しかし肉体人間の脳天(第七のチャクラ)が神界以外の階層即ち幽界から伝わってきている波動に蔽(おお)われてしまうと、新しい宇宙子が肉体に降りて来ている分霊魂に届かず、最初に入った自分の古い宇宙子だけのいわば蓄電池を使おうとするから、結論的には新陳代謝が行われずに、古い宇宙子そのままとなり、肉体が時とともに老化し、働きが悪くなるのと同じように、神霊の心そのままの働きはできなくなってきたのです。

内なる神聖の働きをもっと実感したいときは、日々宇宙神の光(精神宇宙子)を受け入れる「チャクラを活性化して神聖を現わす呼吸法」なごを実践していけば、それが可能になるのです。

故伊藤頭長老導師から教わったやり方は、「自分の頭頂から宇宙神に向かって息を吸いながら」宇宙神と一体、五井先生と一体、守護霊守護神と一体「心のなかでとなえながら、心を整える方法です。これなども、神聖を現わす呼吸法の有効な方法だと実感しています。

「他人の怒り、悲しみ、苦しみを手放します」という宣言を三回唱えることで、把われがなくなっていくますが、この宣言に準じて健康面にも適用できることがわかってきています。

自分の調子のおもわしくない臓器や機能に対して、「〇〇の機能障害を手放します」と三回なえると、少しずつ良くなっている実感を持っています。実践してくださいっているある方は、「〇〇という臓器のはたらしを示す数値がよくなった」とその感想を寄せてくださっています。

宇宙神から直接チャクラを通して、高い波動(精神宇宙子)を常に意識して降ろしていくことが、個人の意識波動を高め、そして個人から降ろされ、肉体エネルギーとブレンドされた高い意識波動は、人類全体の意識波動をも高め、人類が神聖を思い出すきっかけをつくり、大調和の世界を築く礎になるのではないのでしょうか。